

2020年9月 大学教職員研修(Zoom研修会資料)

コロナ禍での学生対応

子どもとおとなの心理学的医学教育研究所 iPEC

<https://www.ipec2005.com/>

千代田クリニック <https://www.chiyodaclinic.com/>

精神科医師 吉田 友子

コロナ禍での学生対応

- 誰にとっても初めての体験
 - 新型コロナウイルスそのものに関する不明点が多い
 - 学生の反応やとるべき対応も知見の集積は乏しい

皆さんが体験した学生の反応についても、Q&Aに積極的に書き込んでください。視聴者全員で共有しましょう。

- 本日の講義は講師の現時点での臨床経験に基づく整理
- 公的機関などからも多くの発信がなされている
(読みきれないほどに)
- 最後にサイト紹介スライドあり

学生も教職員も大きなストレスにさらされている -1

- 疾病（新型コロナ）への不安
 - 疾病罹患への不安（自分自身、親しい人たち）
 - 十分な感染予防を行えているかどうかへの不安
- リモート下での新しい大学生活での不安：後述
- 行動制限・行動自粛でのストレス
 - 趣味の活動や友人との交流などの、楽しみの活動を行えないストレス
 - 運動不足、食事量・飲酒量の増加、睡眠パタンの乱れなど体調管理のリスク

学生も教職員も大きなストレスにさらされている -2

- 家族との関係変化に伴うストレス
 - 家族揃って在宅勤務・在宅授業となり
 - 互いに過干渉となったり、対立が顕在化したり
 - 帰省できず(上京できず)、会えない寂しさや不安
 - 実家から家事支援を受けていた学生では支援の減少
- 経済的状況の変化
 - アルバイト収入の激減
 - 親の経済状況の変化
 - 就活への影響、将来の就活への不安(企業の業績悪化、就活の時期や手順に変化の可能性)

リモート下での新しい大学生活での不安・混乱 -1

- 授業形態の変化(リモート授業)
 - どんな末端・どんな住環境で視聴しているか
 - 対面授業ほど集中力は維持できない・疲労感が強い
 - 周囲を見渡せない(他学生の反応が把握できない)
 - オンライン中休みを設定し学生間の交流促進例も
 - 教員もオンライン授業教材の作成に慣れていない
 - いつから、どう変わるのか、なかなか決まらない
- 大学・学生間での情報伝達様式の変化
 - 電子的情報伝達に不慣れな大学・学生では混乱も
 - メールをほとんど開封せず放置している学生もいる

リモート下での新しい大学生活での不安・混乱 -2

- 他学生との交流の減少・変化
 - 「キャンパスライフ」の消失
 - 部活動等の休止だけでなく、授業前後のやりとりなど「ちょっとした交流」の消失
 - ストレスとを感じる学生と、ストレス軽減とを感じる学生
 - オンライン飲み会など新たなスタイルの混乱やストレス
- 教員との交流
 - 「対面にまさる交流はない」→発想の転換が必要だろう
 - ウェブ・オフィスアワーやオンライン授業のチャット機能で、以前より教員とコンタクトがもちやすいという学生も

対応について-1

- コロナ禍でストレスを生じるのは当然のこと
学生の不安や苛立ちに共感する姿勢が重要
 - 「本当に嫌になっちゃうよね」「どうなるんだろうねえ」など
コロナ禍での閉塞感を出し合えることが望ましい
 - いさめる対応（「みんなだって大変なんだから」など）は、
学生の更なる苛立ちや自責感の増大、教職員への不満
を引き起こす危険性が高いだろう
- 過度な行動自粛を望まない
 - 心身の健康を維持して、持続可能な行動様式の模索
 - 行動隠蔽や不安・抑うつ・自責感を回避したい

対応について-2

- これまで通りの枠組みを意識する(意識させる)
 - 大学生の生活の枠組みは授業である程度守られている
 - オンデマンド授業はメリットもあるが、生活の枠組みを維持する・オンオフの区切りをつける点ではリスクあり
 - 着替え・食事・入浴・運動・睡眠など、本人が許容できる範囲で継続(完全にこれまで通りであることは求めない)
- 慢性的なストレス下で以前と同じ成果を求めることは現実的でない：提出期限、課題の量や評価
Emergency Satisfactory / Emergency Unsatisfactory (ハーバード大学)
- 金銭・IT機器・学習場所などの提供(財源は大学???行政?)

対応について-3

- 楽しみの総量を増やすための支援
 - これまで通りの趣味をこれまで通りの形・分量で楽しめている学生は稀
 - 趣味(こだわり)で心を支えてきたASD学生では特に重大
 - 楽しみを探す行動を不謹慎だと教職員が思わないこと
- 教職員もコロナ禍にあることを忘れない
 - 支援する立場であると同時に支援されるべき立場にもある
 - ウェブ授業準備・評価はとても大きな心身の負担
 - 窓口業務・就活支援・学生相談・修学支援など全て手探り
 - 当然、コロナ禍にある一個人でもある

コロナ禍を今後につながるチャンスに変える

- 電子的な伝達・事務申請や、リモート勤務・授業の併用はコロナ禍収束後も、改善・定着が図られるべき事柄だろう
- 適応向上事例から学ぶ: ウェブ授業で授業理解が向上し情緒や生活が安定した事例は稀でない(クリニック事例・大学事例とも)
見てわかる資料・事前にダウンロードできること・事後に手元に残ること・見失っても電子的に再入手できること・チャット機能でタイミングをはからずに質問できること…
これらが定着していけばバリアフリーにもつながる
- 変更を定着させれば、今後の有事の際に「これまで通りの手順・枠組み」を継続できることになる(心身の健康に寄与)

参照をお勧めしたいサイト -1

- 新型コロナウイルス感染症防止対策に伴う、
心理面の対応について～教職員の皆さまへ
東京大学相談支援研究開発センター・学生相談所
<https://dcs.adm.u-tokyo.ac.jp/scc/scc-info/1189/>
- もしも「距離を保つ」ことを求められたなら：
あなた自身の安全のために
アメリカ心理学会（日本心理学会訳）
https://psych.or.jp/about/Keeping_Your_Distance_to_Stay_Safe_jp/

参照をお勧めしたいサイト-2

- 新型コロナウイルス感染症対策(こころのケア)

厚労省・こころの耳

https://kokoro.mhlw.go.jp/etc/coronavirus_info/

- オンライン授業に関する学生アンケート(ICU)

– 学生から好評だった2020年春学期のコースに関して、実際の学生のコメントと担当教員の授業工夫等の解説を学外にも公開してくれている

- <https://sites.google.com/info.icu.ac.jp/onlineclass-j/good-practice?authuser=0>